



「医療におけるプロフェッショナリズム」

— 内視鏡のゴッドハンドとして
世界的名声を博す工藤進英先生が語る—

「幻のがん」と呼ばれていた陥凹（かんおう）型大腸がんを発見。
以後、膨大な症例の研究によってその存在を世界に認めさせた。
切らずに治す、神の目を持つ外科医と言われている、工藤医師。
診察は世界で一番速く、症例数も格段に多い。
これまで10万例の内視鏡検査を実施。
ベテラン医師で30分はかかる検査を、
5分で終わらせるというのにも確かな目を持っているからこそ出来ること。
がんは決して不治の病ではない。
適切な時期に適切な治療をすれば、
例えがんに罹患したとしても克服することができる。

講師 **工藤 進英** 氏 (くどうしんえい) 医学博士・昭和大学医学部教授

1947年 秋田県生まれ。
昭和48年 新潟大学 医学部卒業
昭和48年 新潟大学 外科
昭和60年 秋田赤十字病院 外科部長
平成 4年 同胃腸センター長
平成12年 昭和大学医学部 教授／横浜市北部病院消化器 センター長
平成13年 同副院長
平成19年 上海復旦大学附属華東医院 終身名誉教授
*米国消化器内視鏡学会 国際会員 *米国消化器病学会 国際会員
日本消化器内視鏡学会 (理事・評議員・指導医・専門医)
日本消化器病学会 (財団評議員)
国土交通省 観光庁・インバウンド医療観光に関する研究会 委員



■主な著書：『大腸がんでは死なせない』（土屋書店、2009年）
『見えないがんを追う 一大腸内視鏡が拓く医療フロンティア』（新潮社、2009年）
『ステップアップ！消化器内視鏡トレーニング』（中山書店、2009年）
『Color Atlas 大腸拡大内視鏡』（日本メディカルセンター、2009年） 他多数

・内視鏡による大腸ガン治療の世界的権威
・NHKプロフェッショナル「仕事の流儀」、「ためしてガッテン」など出演

